

学校教育目標	進んで学び 高め合う子 ~元気・勇気・根気~ <みらいをつくる ほんきのまなび>				
	【元気】運動に親しみ、自分の健康のために行動する力を育みます。 【勇気】誰もが安心して過ごすことができる自分づくり関係づくり仲間づくりができる力を育みます。 【根気】身近な人やもの、ことと関わる中で課題を見だし、解決に向けて自ら判断し、表現しながら解決を図る学習を充実させることで、確かな学力と学ぶ楽しさを育みます。				
学校概要	創立 55 周年	学校長 鈴木 康史	副校長 三田 恭子	2 学期制	一般学級: 27 個別支援学級: 7
	児童生徒数: 872 人 主な関係校: 十日市場中学校 十日市場小学校 新治小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	十日市場中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<持続可能な社会づくりを担う力> 地域での体験的な活動の充実による Act Locally 多様な学びの場での多面的・多角的な Think Globally	十日市場中学校 十日市場小学校 新治小学校 三保小学校	自他を大切にしながら、地域や人との関わりの中で、 自ら進んで学び、積極的に社会に参画する子ども。 ・キャリア教育 ・言葉遣いやジェンダー等に対する指導 ・地域行事(ロードレース)への参加 ・小中学校相互の授業参観や生徒会等の交流

中期取組目標	OUNESCO SCHOOLとして、Think Globallyに向けて教育活動をESD(SDGsで共に未来を創る)を結び付け、Act Locally 充実のために地域との関わりを見直しながら、子ども一人ひとりの「生きる力」「持続可能な社会づくりを担う」を育む。 【元気】運動に親しみ、自分の健康のために行動する力を育みます。 【勇気】誰もが安心して過ごすことができる自分づくり関係づくり仲間づくりができる力を育みます。 【根気】身近な人やもの、ことと関わる中で課題を見だし、解決に向けて自ら判断し、表現しながら解決を図る学習を充実させることで、確かな学力と学ぶ楽しさを育みます。
--------	---

重点取組分野		具体的取組
知	確かな学力	①学習環境の整備と、教師の授業力向上を図り、児童の学びに向かう意欲を高める②学習評価を適切に行い、改善につなげられるよう、学習の目当て・内容・方法等を吟味し、学びの質の向上を図る③個別最適な学びを充実させ、学力の定着を図る。
徳	豊かな心	①日常の道徳教育と道徳科との関連を図り、学校全体として、他者との違いや多様な考えを認め合う態度を育成する。②誰もが気持ちよく安心して生活できるように、福祉委員会や生活委員会が中心となって挨拶や温かい言葉掛け、人権週間などに全校で取り組む。③異学年交流の目的を明確にし、継続的に活動することで、発達段階に応じた思いやりの心を育成する。
体	健やかな体	①児童一人ひとりが運動に主体的に取り組み、心身の健康や他者と協力して楽しむことを実感できるように、スポーツフェスティバルや運動委員会を主体とした年3回の長縄集会を実施する。②運動に親しむとともに、継続的に体を動かすことで自己の体力向上につながるよう、運動委員会の取組や体育学習の充実を図る。③「健康な骨づくり」をテーマにした健康課題について主体的に考え、行動に移すことができるよう、学校保健委員会を中心とした取組の充実を図る。
公開	地域連携・学校運営協議会	①三保のまちと連携した探求的な学びの実現に向けて、各教科等及び行事に関連付けて、まちの力(人材・学習材)を生かせるよう学校運営協議会と連携する。②授業参観や学校HPを活用して情報発信を行い、登下校指導や読み聞かせなど、地域・保護者と連携・協働した学校教育活動の実現に向けて、学校教育活動ボランティアや地域コーディネーターとの一層の連携を図る。
いじめへの対応		①児童の些細な変化を見逃さず、思いに寄り添った適切な対応ができるよう、年間で3回いじめや生活に関するアンケートを実施する。②Y-Pアセスメントや横浜プログラムを年間計画に沿って実施をする。③毎月必ず全職員参加のいじめ防止対策委員会を実施し、認知された案件の共有や経過確認を丁寧に行い、見守りの体制を整えたり、未然防止に努めたりする。
人材育成・組織運営(働き方)		①開かれたメンター研を目指し、メンター以外の職員も学び合うことができるような場にする。 ②教務のメンバーそれぞれが課題意識をもち、よりよい学校運営が進められるようにする。 ③ICTを使用することや内容の精選を図ることで、スムーズに会議運営を行えるようにする
教育課程		①「教育課程全体を通じて教科等横断的に育成を目指す『資質・能力』のイメージ」をもとに育成を目指す資質・能力の系統を明確にし、職員で共有する。②学年研や重点研究において「ESD教材研究」の時間を位置付け、教育課程の見直しを短いスパンで行う。
児童生徒指導		①「スタンダード」「児童の約束」の振り返り修正を図り、学校全体で組織的に指導にあたる。②児童支援専任を中心に、学年主任や担任とともにスタンダード等に基づいて学習・生活支援体制を整える。③校務委員会(児童指導・特別支援部会)に児童理解の内容を定例化し、全職員で児童の状況を共通理解する。④不登校児童や家庭へこまめな連絡を行い、連携を深めながら、学びが継続できるようにする。
特別支援教育		①校務委員会(児童指導・特別支援部会)を中心に、特別支援を必要とする子どもへの支援や学びの場を考える。②各教室の特別支援に関する環境を整える。③個別支援級担任と交流級の担任が連携し、話合いや週案等で個別支援学級の児童の様子を伝え合い、よりよい交流及び共同学習となるように努める。
ICTの活用		①タブレット端末を活用して、ロイロノートをより有効に生かして、教材準備、教材の共有、子どもの声のくみ取り、子どもの考えの共有、ポートフォリオの作成などを進める。②ロイロノート等の活用で、情報収集、情報活用、情報整理、情報モラルの資質・能力を身に付ける。③ICT部の活動により、アカウント整理等の仕事分配を実施。